



心理カウンセラー（相談員）

中川 浩子 さん

広島県出身。読書、露天風呂巡り、カレーの食べ歩きが趣味。

18年間の公務員生活を経たのち、2004年ニューヨーク大学教育大学院修了。帰国後、臨床心理士資格取得。以後、さまざまな現場でカウンセラーとして活動している。

相談員の声

我慢やひとりで悩まず 気軽に相談ください

三芳町では、女性の視点に立った悩みなどの相談に応じています。今回は実際に相談を受けている相談員の中川さんにお話しを伺いました。

DVを受けているという認識がなく「こんなことで相談する必要はない。自分が我慢すればいい」と思い込み、相談を遠慮する人が多いです。しかし、特に夫婦間のDVでは長い間繰り返して、身体的暴力を受けた場合、健康や生命にかかわります。けがを負い、時には警察や病院で支援を受けて初めて自分がDVを受けていると自覚する場合があります。また、若い人たちの間でデートDVが問題となっています。携帯電話やスマートフォンなどの普及がこれに拍車をかけています。「誰からの電話だ」「着信履歴を見せろ」「あいつとは話すな」などと行動を制限することも、DVだということ子どもたちだけではなく、大人も理解し、気づいてあげることが必要です。不安な気持ちがあっても、決して一人で我慢しないようにしてください。相談員と会話をしたり、相談するだけでも気持ちが落ちつきます。そして解決法が見えてきます。相談することは決して恥ずかしいことではありません。ひとりで悩まずに、気軽に相談ください。

相談窓口を設置しています。一人で悩まず相談してください。

DVで悩んでいるのはあなただけではありません。相談することにより、あなたの中で問題が整理され、解決のきっかけがつかめるかもしれません。もちろんあなたの秘密は守られます。相談は無料です。

みよし女性相談（予約制）

女性の視点に立った悩み、困りごとの相談に応じます。DV・セクハラ・夫婦間のこと・家族のこと・自分の生き方・心身の不安・職場や地域の人間関係など……。カウンセラーは三芳町に地縁がなく、プライバシーは厳守します。安心して相談ください。

- 日程 毎月第2・4金曜日
時間 11:00～15:30 (1人50分間)
場所 役場1階住民相談室
相談料 無料 (面接または電話相談)
予約方法 総務課人権推進係 内線 404・405

埼玉県の相談窓口

- 埼玉県婦人相談センター DV相談担当
048-863-6060
月～土 9:30～20:30
日・祝 9:30～17:00 (12/29～1/3除く)
With You さいたま (埼玉県男女共同参画推進センター)
048-600-3800
月～土 10:00～20:30(予約制) (12/29～1/3、日・祝日、第3木曜日除く)

緊急の場合は迷わず110番



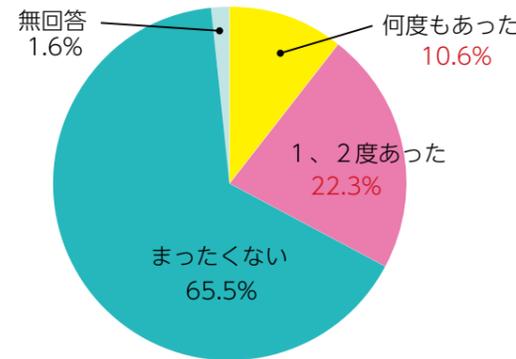
女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

結婚後、女性の3人に1人がDVの被害にあっています

平成23年11～12月に内閣府男女共同参画局で行われた男女間における暴力に関する調査の結果、女性の3人に1人はDVの被害経験があり約10人に1人は何度も受けているということが分かりました。

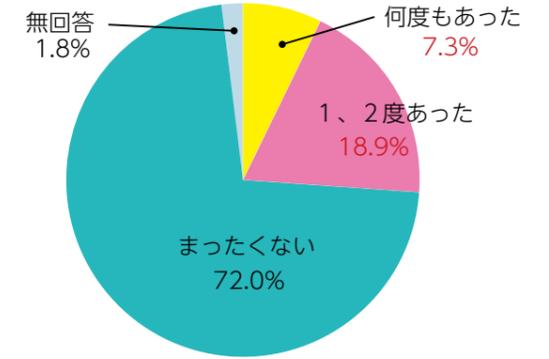
(調査対象：全国20歳以上の男女 有効回収数 男性1,542人 女性1,751人)
参考文献：内閣府男女共同参画局 男女間における暴力に関する調査報告書<概要版>

配偶者からの被害経験（女性）



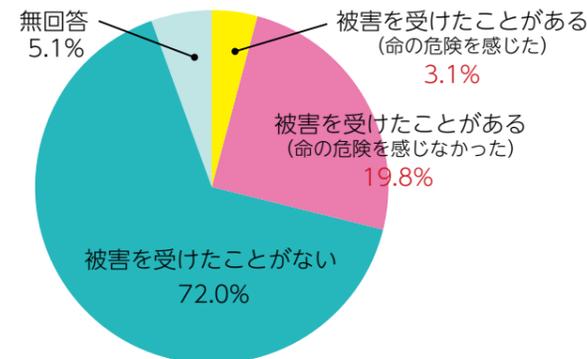
女性の約3人に1人は配偶者から被害を受け、約10人に1人は何度も受けている。

配偶者からの被害経験



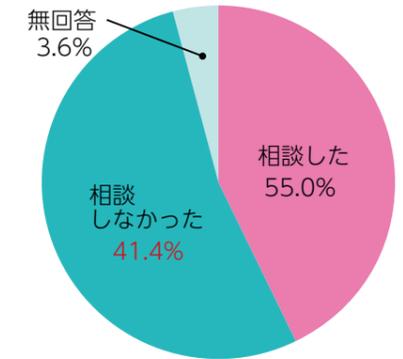
約4人に1人は配偶者から被害を受けたことがある。

命の危険を感じた経験



女性の約20人に1人は命の危険を感じたことがある。

配偶者からの被害相談の有無（女性）



被害を受けた女性の約4割はどこにも相談をしていない。

平成23年の内閣府の調査によると、結婚したことのある女性の約3人に1人はDV被害を受けた経験があることが分かりました。DVは今まで、家庭の中で起こることから夫婦げんかとみなされたり、恋人間のデート中のけんかなど個人的な問題としてみなされてきました。平成13年にDV防止法が成立し、社会的な取り組みとして被害女性に対して救済の手が差し伸べられるようになりました。DVは外からは見えない深刻な人権侵害であり、社会問題です。DVを受け続けると、身体的な健康が損なわれるばかりか、人間不信や無気力になり、仕事や家事や育児といった日常生活に支障をきたす場合があります。しかし、上記アンケート結果のように配偶者からDVの被害を受けていても、女性の場合、約4割はどこにも相談していないということが現状です。あなたの近くにDVやデートDVに悩んでいる人はいませんか。青あざや傷を不自然に隠している人はいませんか。DV被害拡大を防ぐには、本人だけではなく、周囲が気づき、手を差し伸べることも必要です。